

スズカンエネルギーニュース 第10号

~安心・安全のために~



お客様に利用して頂いていたLPGガス。弊社がLPGガスの販売を始めて50年が経ちました。今回は、いつからLPGガスがライフラインとして利用されるようになったのか、またどのように過去の出来事に関わってきたのかを調べてみました。

LPGガスの歴史

1929年(昭和4年)、ドイツの飛行船ツェッペリン伯爵が日本の霞が関飛行場に着陸した際に、米海軍当局より燃料供給を委託されたカーバイド・アンド・カーボン・ケミカルズ社が日本へ「パイロファックスガス」を送り、水素ガスと混じて飛行船専用の燃料として供給対応しました。

この「パイロファックスガス」の成分がプロパンガスであったと、後に判明し、「これがわが国にとって最初の「LPGガスの使用」といふことに

なります。

1938年、自動車燃料としての許可が下りました。今では世界中でモータリゼーションが進み、最近ではカーボンニュートラルが叫ばれるようになり、ハイブリッド車や、電気自動車が増えましたが、1941年の車生産台数は、約600台でした。その多くはタクシーで、現在も約の割のタクシーはLPG車という事です。

1953年(昭和28年)頃から、一般家庭用として普及し始めます。現在では、全国の一般家庭の

約半数(約2500万世帯)でLPGガスが使われています。日本では、LPGガスの40%は、家庭・業務用燃料として使用されています。

1955年 丸善石油、大協石油がLPGガスの生産を開始。

1961年 LPGガスの輸入が始まる。

1964年 東京オリンピックの聖火台の燃料に、LPGガス

が使用される。(マルヰプロパン)

1973年 第一次オイルショック。あらゆる物価が高騰して、消費者による買占めなどパニック状態が起り、ガスの価格も2倍以上急騰しました。

この年、液石法改正により、ガスマーター設置が義務付けになりました。

1996年までにほぼ100%の設置率

となり、消費者事故件数も著しく減少しました。



ガスマーターの設置義務付けは、

今から約50年前とは、意外と遅かったのですね。)

1978年7月から3年間、消費者保安の一層の向上として、「LPGガス設備総点検事業」を実地。

現在は、4年に一回以上の定期調査が義務付けとなつていますが(1年に1回以上の場合もあり)、

1983年 11月「つま恋」ガス漏れ爆発事故

静岡県掛川市のレクリエーション施設。原因は施設内工事のために、ガス器具の末端ガス栓を開いたまま器

具を撤去)工事期間中はガスの元栓が閉止されていましたため、事故にはならなかつたが、施設が再開されガスを使用しようとして爆発事故となつた。

1986年5月 四日市市LPGガス充填所爆発事故
ガスボンベへのガス充填時に過充填となり、ガスを放出したところ、周囲のボンベが誘導体となり静電気を帯びてガスへ着火、火災。次々と周囲の容器が過熱され破裂し炎上した。

1987年 ガスエンジンヒートポンプ式エアコン(GHP)発売開始。エネルギー高効率、低炭素、節電可能と現代社会において、有効な商品です。

1990年8月 湾岸戦争

イラク軍は突如としてクウェートに進行、制圧。イラクの1の番目の州として併合したこと)を宣言。石油・LPGガスの輸入停止。

この戦争をきっかけに、LPGガスの国家備蓄建設に関する検討が開始されました。(1998年に、国家備蓄会社「日本液化石油ガス備蓄株会社」が発足)

1995年1月 阪神・淡路大震災発生

兵庫県淡路島北部沖の明石沖を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生。ライフラインが寸断され、復旧までにかなりの時間を要しました。

LPGガスは、震災から約2週間後には消費設備の安全点検を完了し、復旧を果たしました。

発行元



スズカン株式会社

〒510-0072 四日市市九の城町5番8号
電話 059-351-5131代

ホームページアドレス
<https://suzukan.co.jp>



震災後に建設された仮設住宅にはLPGガス設備が設置されました。

2001年9月11日 アメリカ同時多発テロ事件

2003年 イラク戦争

2003年10月 エネルギー基本計画が策定

エネルギー政策上、これまで石油製品の一部として扱われてきたLPGガスを、同計画において「ガス体エネルギー」として明確に位置づけ。

2003年 ガスエンジンコーチェネーションシステム「エコウェル」

が発売開始

2007年 家庭用燃料電池「エネファーム」販売開始

2011年3月11日 東日本大震災発生

国内観測史上最大のマグニチュードの〇の即大地震と大津波、火災、更には原子力発電所の事故も発生。また、液状化現象、地盤沈下、ダムの決壊などにより広範囲で各インフラが寸断されました。



更には津波によって流出したガスボンベからガスが噴出、爆発炎上し、港湾火災の火種の一つとなりました。しかし、都市ガスが半年から1年の復旧期間を費したのに対し、LPGガスは、地震発生後約3週間程度で大部分が復旧しました。

2012年 改正石油備蓄法が施行。災害時の備蓄放出について規定。東日本大震災をきっかけとして、災害時には備蓄石油やLPGガスを放出できるようになりました。また、供給に関する体制も強化されました。

2014年 アメリカからのLPGガス輸入本格化

2014年8月 広島市北部豪雨

「く狭い地域に記録的集中豪雨が発生。線状降水帯も発生し、多発的大規模な土石流が発生した。ライフライン・インフラ全において大きな被害を受け、LPGガスはガスボンベ350本以上が被害を受けた。

2014年11月 御嶽山噴火、長野県神城断層地震

2015年11月 パリで同時多発テロ

2016年4月 電力小売り事業の全面自由化がスタート 登録小売電気事業者276社のうち、LPGガス・都市ガス会社が合計47社登録。

2016年4月14日 熊本地震

マグニチュード6.5、最大深度7kmを観測。最初の地震が発生した28時間後の16日に再び地震があり、このあたりの方が大きな揺れとなり、その後も震度5以上の余震が続いた。この地震によるLPGガスは、1件も発生なく、供給途絶もありませんでした。

2016年10月 トヨタ自動車が、LPGガスハイブリッドの「スマタクシー（ジャパンタクシー）」を発売。

2017年 九州北部豪雨

福岡県・大分県で集中豪雨、線状降水帯が発生。河川の氾濫や土砂崩れが起きた。LPGガスは、ガスボンベ流出や埋没の被害を受けた。

2018年7月 西日本豪雨

台風7号と梅雨前線の影響で集中豪雨が発生。河川の氾濫、

洪水、土砂災害が発生し、甚大な被害を受けました。
40名近くが死亡。国内初、道内全体が停電した（ブラックアウト）。
2019年9月台風15号
千葉県などで大規模停電が発生。充填所やオーツスタンドが稼働停止。LPGガス発電機が導入施設で活躍。

2019年10月 台風19号上陸

東日本の広範囲で記録的大雨。宮城、福島、栃木、埼玉、神奈川県で施設への浸水や充填所からガスボンベ流出被害

2019年 東京オリンピック、発売から10年目で累計販台数30万台を突破

2020年1月 WHOが新型コロナウイルス感染拡大でパンクトリック宣言

2020年10月 菅首相（当時）が、国会の所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル」を宣言。

2020年12月 政府が「グリーン成長戦略」を策定

2021年7月 東京オリンピック開催

トーチ燃料にLPGガスが採用

2022年2月 ロシアがウクライナに侵攻



2023年6月 「GX（環境負荷低減と経済成長を両立する取組）推進法」、「GX脱炭素電源法」が国会で成立

2024年1月1日 能登半島地震

内陸部で発生した地震で、マグニチュード6.0、最大震度7を観測。日本海沿岸で広範囲に津波が乾燥区され、土砂災害、火災、液状

化現象、家屋倒壊が相次ぎ、当然交通網も寸断されました。LPGガスに関しては、津波の影響でガスボンベの流出が確認されています。ガス漏れに関しては、各県で迅速な対応が実行され2月末までに修繕されました。

このように、LPGガスは「ライフラインで利用されるように」なってから、「災害に強い」と言われています。しかし一方では、「甚大な災害」にもつながる危険な物質でもあります。これからも、お客様へ「安心・安全」にLPGガスを供給し、情報を周知をして参りますのでよろしくお願い致します。

※今回、無事10号を発刊できました。ありがとうございます。掲載するにあたり、やはりLPGガスと災害は深く関わっていますことをお伝えすることができず、似たような内容になります。ですが、今後とも苦心惨憺しながらも続けていかなければと思っています。次号もよろしくお願い致します。

近年、異常気象の影響が強く、異常な雪や、その半面集中豪雨や線状降水帯などで甚大な被害が数多く聞かれます。

また、能登半島地震以来南海トラフ地震も懸念されています。

心配や不安なことがたくさんありますが、日々これから災害に備え、また精神的にも覚悟と余裕をもつて日々過ごすことが重要ですね。